

第3回

伝わるように伝える(2) ～モデリング～

認知症の方に伝えたいことを伝えるには、アイコンタクトや伝える場所が大切だと前回述べました。しかし、アイコンタクトによる言葉かけや然るべき場所を設定しても、「伝わらない」場合もあります。

例えば、歯磨きをするため、然るべき場所＝洗面所にご利用者をお連れしても、歯ブラシで髪をとかしたり、食べ物と間違っかじってしまう場合があります。

これは、認知機能の低下（誤認・失行）により、歯磨きの仕方自体が分からなくなっているのです。そのような時は、ご本人の視覚に訴えるように、介助者も一緒に歯磨きをしたり、歯を磨く動作を見せると、記憶がよみがえるきっかけとなり、きっちり磨くことができます。

このように、介助者が見本となって動作を示すことを「モデリング」といいます。そう考えると、ご利用者と介助者であるスタッフが、共に生活するグループホームでは、スタッフの動きそのものがケアになっているといえます。スタッフがバタバタ動き回ったり、不安な気持ちでいると、それが敏感にご利用者に伝わってしまうので、気をつけなくてはなりません。

認知症は生活動作の一つ一つが徐々にできなくなっていきます。モデリングにより、生活動作を自らやっていただくことはその予防でもあり、ご利用者の自立を支援することにもつながります。



文責：施設長 山本 忠弘（認知症介護指導者・介護福祉士・介護支援専門員）

フェイスブックもご覧
ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。
あわせてご覧下さい。



医療法人社団 三喜会
グループホーム・デイサービスセンター青葉台

〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL: 045(981)6900 <グループホーム>

045(982)3200 <デイサービスセンター>